

令和4年度 調布市立第六中学校 学校経営計画

学校の教育目標	
○自ら学び、考える生徒 ○命を大切にする生徒 ○何ごともやりぬく生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
○「自ら学び、考える生徒」→生徒一人一人の学ぶ意欲を高め、学力向上を図る学校 ○「命を大切にする生徒」→心の教育を充実させ、生命を尊重し、共に助け合う態度を育てる学校 ○「何ごともやりぬく生徒」→豊かな体験活動を充実させ、心身ともに健康に生きる態度を育てる学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○コロナ禍からニューノーマルへ移行する教育課程の充実(中止や変更について、迅速、適切、説明責任) ○地域に支持される魅力ある学校づくり(授業の質的向上、ICTの活用、部活動の充実、学校行事の活性化) ○特別支援教育における指導力の向上(特別支援教室拠点校としての通級の指導、通常の学級における指導の充実) ○地域学校協働本部(各種検定等の実施、補習修等サポートの充実)、PTA、小学校との連携・協力
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学習意欲や主体的な姿勢を深め、基礎的・基本的事項の確実な定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力等を育成する。 2 道徳科の授業はじめ生活指導や進路指導を充実させ、人権意識の向上や規範意識の確立を図る。 3 防煙や薬物乱用防止教育、食育等の充実や食物アレルギーへの理解を深め、体力向上や心身の健康に対する意識啓発を図る。 4 特別支援教育の充実を図るとともに、発達段階に応じた系統的・計画的なキャリア教育を通して社会性を培う。 5 家庭、地域、関係機関との連携を強化し、理解・協力を推進する。 <p>人・組 OJT を活用した人材育成と組織的な指導体制を確立する。</p>	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
① 全体計画及び年間指導計画の策定・改善(通年)、道徳科授業の充実(年35時間)	① 少人数・習熟度別指導(1～3年数学・英語)、読書週間(2回)、数学ステップアップ教室(10回)、漢字検定(3回)・英語検定(3回)、英語検定直前自習サポート(6回)	① 体力向上週間(3月)の取組、部活動加入率(90%以上)
② 全教員による巡回指導(毎朝・通年)、六中いじめ防止対策基本方針(4月)、SNS学校ルール(5月)	② 校内研修会(授業改善、ICT、特別支援教育等)、生徒による授業評価(全教科2回)、学校公開(通年)と保護者アンケート	② 第1学年防煙講演会(3月)、第3学年薬物乱用防止教室(3月)、食育(通年、給食便り)、食物アレルギー事故防止研修会、新しい生活様式への意識啓発(通年・随時)、SCによる全員面接・自殺防止授業(1回)
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
① 生徒・保護者による学校評価(年2回)で肯定的評価80%以上	① 授業への集中、忘れ物、宿題忘れ、遅刻等の授業規律について、生徒による授業評価で肯定的評価80%以上	① 体力向上週間(3月)の参加率、部活動加入率90%以上
② あいさつ運動、六中いじめ防止対策基本方針に基づきいじめの未然防止、早期発見、早期対応。また、問題行動について、生徒・保護者による学校評価(年2回)で肯定的評価80%以上	② 校内研修会、研究授業、生徒による授業評価(全教科2回)で肯定的評価80%以上。また、学校公開(通年)とその都度の保護者アンケートで肯定的評価80%以上	② 講演会後の生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価80%以上。また、参加した保護者アンケートで肯定的評価80%以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 キャリア教育と特別支援教育	5 家庭、地域、関係機関との連携	6
(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)	(1) 取組目標(具体的方策)
① 指導計画の改善(5月末)、検証(2月)、就職支援ナビゲーターによる授業(9月)、人権作文、税の作文への参加(8月)、租税教室(7月)	① 地域学校協働本部との連携協力(通年)、数学ステップアップ教室(10回)、英語検定直前自習サポート(6回)、コミュニティスクール開始に向けた準備	
② 校内委員会(年18回)		
(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)	(2) 成果目標(数値目標)
① 参加した生徒による授業評価(感想文等)で肯定的評価80%以上	① 参加した生徒による授業評価で肯定的評価80%以上	
② 教員による自己評価で肯定的評価70%以上		

人材育成・組織運営
<ol style="list-style-type: none"> ① 副校長、主幹教諭に、危機管理やサービス面のトレーニングを積ませ、校長を補佐する立場として育成する(通年、随時)。 ② 主任教諭の受験、外部研修への参加を促し、ミドルリーダーを育成する(通年、随時)。 ③ 全教職員の「人材育成プログラム」を作成(通年)、職務実績記録や業績評価・昇給推薦の根拠資料とする。

